



第 47 号 (年 4 回発行) 編集発行 前 学 院 大 学 弘 広 報 委 員 会 印刷所 (有)小野印刷所

# 2012 弘前学院大学入学式挙行

本日、ここに二〇一二年(平成二四)年度の入学式を挙行するにあたり、弘前学院理事長・学院長阿保邦弘先生はじめ、入学生のご家族の皆さま、校友会、父母と教職員のご会、理事会、評議員会、教職員各位のご臨席を得て、ここに式辞を述べ、お言葉を与えられまし

## ◆◆◆ 入学式式辞 ◆◆◆



学長 吉岡 利忠

この度、文学部第四十二回、社会福祉学部第十四回、看護学部第八回、大学院社会福祉学研究所修士課程第十回、文学研究科修士課程第八回、総勢一六七名の皆さまを弘前学院大学にお迎えすることができました。これまで、お子様のご成長を楽しましに一生懸命育んでこられましたご家族の皆さまのお喜びはいかばかりかとご推察いたします。誠にありがとうございます。

害もありました。災害から、早くも一年が過ぎましたが、復興・復旧は少しずつではありますが、進んでいます。さらに、私共も直接的あるいは間接的な支えを常に心掛けて行かなければなりません。そうした時に、ブータン国王夫妻が来日され被災地にお出かけになりそして日本各地でお二人幸せの笑顔を振りま

時に伝統を積み重ねている大学であります。また、弘前学院聖愛中学校・高等学校を加え、高・大・大学院として一貫の教育を行っており、地域に根差した研究教育機関として広く知れ渡っております。



入学式宣誓 (4月4日)

えを学ぶことは、西洋の学問・歴史のみならず文学・社会福祉学・看護学など生命科学分野の学問を学ぶ上でいかに大切であるかを知ることにあります。多くの先輩は、聖書こそこの世で最も崇高な書であると誉めています。どうぞ、皆さんは聖書となじみ深い関係になって頂きたいと思

学部学生および研究科学生の皆さんは、それぞれ専門性の高い教育、実習や演習を受けます。その道のスペシャリストにならなければなりません。社会で活動して行くためには人と人とのコミュニケーションがとて大切で、コミュニケーションとは、伝達、連絡、情報を受け

も多いでしよう。当然、この姿勢を堅持して下さい。新入生同士のコミュニケーションは必要です。これは同窓という仲間同士の意識を作ります。さらには、学生、教員、職員とのコミュニケーションというように発展して行くことです。弘前学院に集う全ての学生、職員そして教員は、上も下もなくそれぞれ同じレベルの三つの輪で繋がっている、繋がっているべきであると、常に私は思っています。

## 本多庸一とキリスト教 (20)

学校法人弘前学院 理事長 阿保 邦弘



青山学院長としての教育方針

一八九〇(明治二十三)年本多はアメリカから帰国した。満四十一歳であった。かれは東京英和学校校長に就任し、青山

十七年間の「本多時代」がここに始まるのである。本多の教育方針は当時の「東京英和学校一覽」に明確に示されている。明治二十四年度の一覽には「本両学部(予備学部・高等普通学部)ノ目的ハ独リ知育ヲ与フルノミナラス基督主義ノ道徳ヲ以テ学生ノ品性ヲ高尚優美ナラシムルニアリ」とあって、

ケ之ヲ学生ノ上ニ強行セントスルハ是レ本校ノ主眼ニアラズ、繁律冗法ハ努メテ本校ノ避クル所ニシテ成ルベクハ自治自制ニヨリテ秩序ヲ維持セントスルノ趣旨ナリ、現行ノ規律ハ経験上ヨリ秩序ノ備ハレル学校ニ必要ナリト思惟スルモノニ外ナラズ、都テ(すべて)真正ノ豪氣、目的ノ確立、金言ノ遵守、学業ノ研鑽、及ビ帝室国家父母教師ニ対スル尊敬ハ学生タル者ノ須ユ(すゆ わずかの時)モ欠クベカラザルモノトス、若シ此等ノ特性ヲ具備セザルモノハ宜シ

ク去リテ他ニ之クベキナリ。」キリスト教に基づく宗教教育を教育の中心に据え、人格の尊重と特性の陶冶を中心目標とする。しかもその場合、国家の法を遵守し、日本社会の現実の秩序を重んじて、之との調和をはかる。政治に対する旺盛な「国士」的関心を持ちながら、しかも政策の覇権の外に絶つ自主独立の高尚な理想を失わず、現実

であった。別所梅之助はこういう本多の行き方を評して「先生の構えはおほむね正眼なり。理詰めの勝負をなせども、奇捷(きしよう) 思いがけない勝ち)を得んとあせらず。戦はずして時に笑ふなり」といつているが、確固たる信念と、それにワンクッションの余裕を与える豊かなメンタリティのみがこのよう

彼が満四十一歳から五十八歳にわたる時期であり、年齢的にも円熟し、かつ働き盛りの十七年間であった。後年かれは、その来し方を振り返り、彼一流の率直さでこう述べた。「宗教学校に校長たらんとする者は、逆風に帆船を遭らんとする如きで、帆を操って千鳥掛けに乗り切りながら目的地に達する航程はきわめて僅少である。順風を受けて理想に邁進するような好日和は一日も望み得ないといつてよい。文部省は右にあり、ミツシヨンは左にあり、前には社会

が、後には教会がある。さらに自分の身に接近しながら、面倒な狭み打ちをする者は諸教授と学生とである。この辛苦難は実に言語に絶して経験した者でなければ想像もできない。」青山学院と改称

一八九三(明治二十六年)は、青山の地に東京英和学校が創立されて以来十周年に当たった。六月二十九日芝公園三緑亭において盛大な開校十周年祝賀会が催され、井深権一助、元良勇次郎、徳富猪一郎その他の演説があり、本多校長は閉会に当たつたのである。(以下次号)

「ボランティア活動をすると、体を手伝ってほしい。年会費の額はいくらでもいいから。」

「ええ、いいですよ(心の中で、ええ、会費を払う...)。」

数年前、視覚に障がいのある方々のために、図書や自治体広報紙などの点訳と音訳の奉仕活



### お互い様の心で

社会福祉学部 講師 立花 茂樹

ボランティア活動をすると、体を手伝ってほしい。年会費の額はいくらでもいいから。それは取得単位に換算されることでもあります。文学部では、英語弁論大会、日本語文芸コンテスト、社会教育フォーラム、社会福祉学部では、ヒロガク福祉創造フォーラム、などが、学生が主体となるイベントが多数あります。どうぞ、奮ってご参加ください。それなりの賞品がでます。

本学には、特徴的な研究機関として地域総合文化研究所があります。地域の文化を学術的に総合的な視野から調査研究することを目的としており、「地域学」という学術書の発行はすでに第九巻を数えております。極めて貴重な学術書であり、高く評価されております。東北地方、青森県内、そして津軽地方には様々な風習などがあり、そこに暮らしている方々のさまざまな支えに感謝しております。この書には、その分野の専門家により詳しく述べられており、この地方の文化を大学生の皆さんも勉強して欲しいと思います。看護学部では、保健医療福祉分野で働く方々のために、リカレント教育が開設されており、充実した内容のため多くの参加者があり、高い評価を受けております。

さらに、新しい試みとして特別講話を導入しております。動物

介在療法 Animal Assisted Therapy (AAT)、すなわち訓練された犬たちが病院や高齢者施設に入り、難病で苦しんでいる患者さん、高齢者施設などの入所者たちを癒すという、諸外国では何十年前から行われている療法の特別講演があります。捨て犬を訓練しセラピードッグまで育てあげる。最近、東日本大震災で、飼い主がいなくなった犬達を救助しセラピードッグになるように訓練している様子をテレビや新聞を通して見ました。セラピーというのは治療という意味です。講師は大木トオル先生で、弘前学院大学の客員教授になって頂いております。ブルーシンガーとして世界的に有名な方で、多分、皆さんはテレビ、ラジオや新聞で見たり聞いたりしているかも知れません。

また、音楽を用いた音楽療法 (Music Therapy) など時代に即応した興味深い講演も計画しております。このように、弘前学院では、通常の講義や実習などの他に特徴的な科目を設けており、学生生活の充実性を図っております。

さらに、弘前学院大学は、特に国際交流に力を入れております。米国ウイスコンシン州にあるウイスコンシン大学とは姉妹

校を締結し両方の大学生間で行き来がありますし、ヴァージニア州シェンダア大学、イリノイ州ノースセントラル大学へは海外研修、短期留学が継続しており、それぞれ単位が取得できます。アメリカの大学とは、今後数校とこのような関係を結ぶことを進めております。最近、中国の上海大学の傘下にある教育機関と協定を結ぶことができました。さらには、韓国の大学との姉妹校提携が予定されています。国際的感覚を身に付けるためのカリキュラムであり、在学中でなければ経験できない行事であります。ウイスコンシン大学およびシェンダア大学との姉妹校提携の時の写真などは校内に掲示されております。

また、弘前市内にある六つの高等教育機関で組織されている「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」があります。大学の垣根を越え学生同士でさまざまな企画を考え、学都ひろさきの活性化に結び付けようという取り組み。弘前市からも支援を得て、各大学との学術的交流、学生が主体となってセミナーの開催市長との懇談会、合同文化祭、弘前中心街でのイベント、若い世代が街を盛り上げようと熱心に取り組んでいます。どうぞ、新入生の皆さんに取っていただくことで、「感動」と「喜び」を味わうなど、たくさんの方々の精神的報酬を得ていることを知った。そして、そのことが会員自身の「生きがい」や「社会的使命感の充実」など、心の豊かさのもとになっているように思えます。

私は、点訳・音訳奉仕の活動の方々への情報保障のお手伝いをしていくものとばかり思っていた。ところが、実は多くの会員が活動を通じて、これまでの生活ではふれることのできなかった経験や文化に出会い、新たな学びの「楽しさ」を知り、苦勞の末に完成した作品を障がい者

んも積極的に参加して頂きたいと思っております。

正門から入り右手にある国指定重要文化財宣教師館は、礼拝堂とともに弘前学院大学に集う私たちのシンボルです。宣教師館や礼拝堂に一步入ると心が和みます。

God Bless You.

二〇二二年度 特待生授与

二〇二二(平成二四)年度の弘前学院大学特待生に、五月三十日(水)十二時より授状の授与が行われた。今年度の授与は次の方々です。

◆文学部

1年 村上 皓紀 (弘前南高校)

2年 川村 美咲(木造高校)

3年 境 達仁 (東奥義塾高校)

4年 浜田 夏妃 (八戸商業高校)

◆社会福祉学部

1年 神 紘弥(木造高校)

2年 工藤 鮎子(聖愛高校)

3年 藤田 菜摘(三沢高校)

4年 佐藤 知美(水沢高校)

◆看護学科

1年 松田 彩花 (三本木高校)

2年 今野紗耶香(橋高校)

3年 吉田さくら (盛岡第二高校)

4年 小山内 萌 (聖愛高校)

本多庸一先生百周年記念

二〇二二(平成二四年)五月十九日(土) 本多庸一先生百周年記念式典が、東京の青山学院大学本多記念国際会議場で開催された。本学からは、阿保邦弘理事長・学院長、吉岡利忠学長および笹森建英特任教授夫妻が参加した。

本多庸一先生は、津軽藩の重臣の家に生まれ明治維新の動乱の渦中を奔走し日本の教育・宗教の分野に生涯を捧げ、極めて大きな足跡を残し、また優れた政治家でもあった。その中で弘



### 2012(平成24)年度1年生(新入生)のための『ヒロガク教養講話』

No.	開講日	担当者	タイトル
1	4月	19 学長	吉岡 利忠 宇宙旅行
2		26 文学部長	畠山 篤 琴の呪力ー神靈・自然・社会の統御ー
3	5月	10 弘前学院校友会 東京支部長	野村 洋子 たった一言の重み
4		17 A Plus English School	ミッシェル アーネンセン 語学と勇気ーニューヨークーカーがリンゴの国へー
5		24 青森県警察本部生活安全企画課 子ども・女性安全推進室 警部補	黒滝 和代 犯罪被害に遭わないためにー自分の身は自分で守ろうー
6	6月	31 弘前商工会議所 名誉会頭	新戸部満男 能力無限
7		7 英語・英米文学科 科長	佐藤 和博 「アイデアをどう作るか?」について考える
8		14 日本語・日本文学科 科長	井上 諭一 ケールジャパンー日本のソフトパワーー
9	7月	28 弘前市ソフトボール協会 理事長	須郷 紘輔 短詩形文学(短歌・俳句)がとらえた大震災その2
10		5 日本語・日本文学科 講師	生島 美和 暮らしの舞台は「学都ひろさき」ーまちづくりに響く学生の声ー
11		12 株式会社 栄研 代表取締役	清藤 慧 介護施設の現場から
12	7月	19 弘前オペラ会員	長内由起子 賽の川原のお地蔵さま
13		26 元ソフトボール日本代表監督 弘前市教育委員会 保健体育課 主査	斎藤 春香 「世界一への道のり」ー勝つための組織づくりとはー

### 2012(平成24)年度『特別講話』

No.	開講日	担当者	タイトル
1	1月 24	国際セラピードッグ協会 代表	大木トオル

前学院の前身である来徳女学校および弘前教会を創設し、東京英和学校を青山学院と改称しその日本人初の院長としての礎を築き、さらには日本メソジスト教会の初代監督に就任したことなど数多くの業績を残し、その詳細に関しては多くの書籍が刊行されている。

この式典では、先ず本多記念国際会議場ロビーにおいて、本多庸一先生胸像除幕式が行われた。記念シンポジウムとして山北宣久青山学院長の挨拶、気賀健生青山学院大学名誉教授による「本多庸一の信仰と生涯」と題する基調講演、その後、深町正信青山学院名誉院長、梅津裕美本多記念協会牧師を加えたパネルディスカッションがあった。除幕式には、安藤孝四郎青山学院理事長、山北宣久青山学院院長、

記念感謝祭は青山学院アイビーホールにて開催され、阿保邦弘前学院理事長・学院長は挨拶の中で、本多庸一先生の知られざる一面を紹介し参加者の感動を得ていた。式典の後援として弘前市および弘前市教育委員会が、共催として更新伝道会、日本基督教団本多記念協会、日本基督教団弘前教会、学校法人東奥義塾、学校法人弘前学院が名を連ねた。

阿保理事長・学院長

阿保理事長・学院長

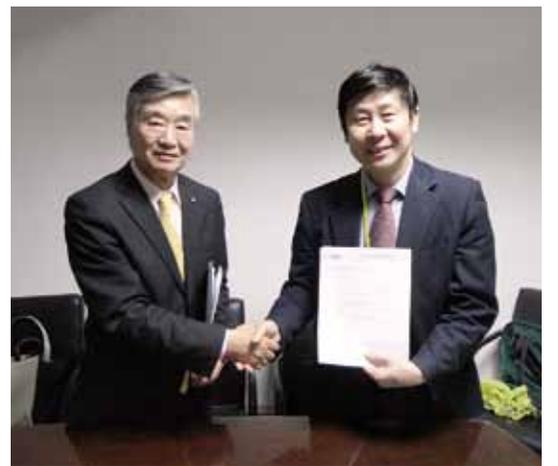


# 姉妹校提携

文学部 教授 顧 偉良

本学は、二〇一三年度より正式に海外留学生を受け入れるため、昨年四月以来、海外の大学との姉妹校提携の準備作業は、着々と進められてきた。その場合、留学生募集に関するすべての業務を海外提携校に委託するの同意を得る。そして、双方の間に調整の上、協定書の

留学生を受け入れることにより、本学の教育環境が変わり、国際化へ新たな一歩を踏み出すことになる。



協定書の署名式の様子。左から本学文学部教授顧偉良氏、海外提携校代表。

# 選択の大学生活

日本語・日本文学科一年(盛岡市立高校卒) 廣瀬 遼



弘前学院大学に入学してから2ヶ月がたち、大学生活にも慣れてきました。故郷から離れての生活、一人

暮らし、自分一人で生活していくことになった大学生活は、始めは不安しかなかった。しかし、同じ一年生の仲間や、教授との関わり、サークル、日々の生活に慣れてきたことにより、段々充実した大学生活になってきた。サークルを例に挙げると、様々な人々との関わりや、今ま

# 自分の可能性

英語 英米文学科一年(黒石高校卒) 畑澤 藍



弘前学院大学に入学して、早いもので三ヶ月が経ちました。入学した当初はこれから始まる大学生活への期待よりも、この先上手くやっていけるのかという不安でいっぱい、高校生活とは全く異なった新たな環

境にただただ戸惑うばかりでした。ですが、リトリートや様々なガイダンスの場を通して先生方とふれあい、かけがえのない友人を得られました。それから、今までの不安がまるで嘘だったかのようになくなり、毎日学校へ行くことが楽しくなりました。日々の授業や勉強に對しても、真剣に、そして積極的に取り組めるようになったと感じています。

でしたことのない活動からの刺激がある。弘前学院だけでなく弘前大学の人も関わることでもでき、とても楽しい。このように新しい生活を始めるにおいて大切なのは、自らの選択だと思ふ。大学は小・中・高等学校と違って、自由である。しかし、それは同時に自分の選択次第でどうなるかが決まってしまうということだ。充実した大学生活を過ごすか、なんとなく過ごして無駄な日々になって

しまうかは、自分の選択次第である。私が大学四年間で目指すのは、中学校の国語の教員になることです。そのために、自分のすべきことは勿論、自分の能力を高めていけるようなことをしていき、何事にも積極的に取り組んでいく姿勢を忘れないで、これからの大学生活を過ごしていきたい。

# 新入生の夢と希望

弘前学院大学に入学してから、あつという間に二ヶ月が過ぎました。自分で決めた進路でしたが、入学する前は不安がたたくさんありました。勉強について

ていけるだろうか、新しい友達と仲良くなれるだろうか、これから始まるキャンパスライフへの期待が高まる反面、不安な思いが募りました。入学後、環境の変化に驚きや戸惑いを感じる日々が続きました。初めは慣れない学内で講義室を探すことに苦労しました。また、高校とは大きく異なる90

分という授業時間に慣れるのに時間がかかりました。さらに、単位を意識して自分で選ぶ科目を決めることも初めてだったので、大変でした。二ヶ月が経ち、今では、毎日のように出される課題に取り組みんだり、サークルに参加したり、忙しいけれども、充実した日々を過ごしています。まだ、不安なことも多く、挫折そうになることもありますが、一人暮らしを心配してくれてくれた人々への感謝の気持ちを忘れずに、目標に向かって努力し続け、前に進んでいきます。

この調子で、しっかりやっていけば良いものが書けるだろう。この先も「満足行く修士論文」を目指し、邁進して行きたい。

# 新しい学び場

社会福祉学部一年(青森山田高校卒) 佐藤 恵利



緊張と不安でいっぱいだった入学式から、二ヶ月が過ぎました。大学という新しい場所での、たくさんの人と出会い、県外からの友人もいて、毎日楽しく過ごしています。

大学の授業は、高校生時代とは全く違い、驚きがたくさんです。一時間半という時間の長さには、深く専門的で、興味深く、主に口頭で伝えるので、集中して聴かなければ、後々大変になってくるというのも、特徴の一つと言えらると思います。ノートをとると作業が難しく感じます。しかし、新しい発見や知識もたくさん学ぶ事ができま

す。一年次は、主に教養部分が多いのですが、二年次から始まる専門的な授業に向けて、努力を怠らないようにしていきたいと思ひます。私は、将来、障害児に関わる仕事に携わりたいと考え、特別支援学校教諭の資格取得を目指しています。以前から、興味があつたボランティア活動ができるサークルにも入りました。先日初めて、ボランティア活動を体験し、「ご苦労様」と言われて頂ける嬉しさと大変さを、身をもって感じました。将来の為に

も、たくさん活動し、役立てていきたいです。サークルと勉強の両立はもろろん、支えてくれている両親や家族への感謝の気持ちも忘れず、過ごしていきたい。夢へ少しでも近づき成長できるように、先生方をはじめ、先輩方から学んでいきたいと思ひます。そして、友達と、笑い合える充実した4年間にできるように励んでいきたい。

# 前へ進む

看護学部一年(三本木高校卒) 松田 彩花



弘前学院大学に入学してから、あつという間に二ヶ月が過ぎました。自分で決めた進路でしたが、入学する前は不安がたたくさんありました。勉強について

ていけるだろうか、新しい友達と仲良くなれるだろうか、これから始まるキャンパスライフへの期待が高まる反面、不安な思いが募りました。入学後、環境の変化に驚きや戸惑いを感じる日々が続きました。初めは慣れない学内で講義室を探すことに苦労しました。また、高校とは大きく異なる90

分という授業時間に慣れるのに時間がかかりました。さらに、単位を意識して自分で選ぶ科目を決めることも初めてだったので、大変でした。二ヶ月が経ち、今では、毎日のように出される課題に取り組みんだり、サークルに参加したり、忙しいけれども、充実した日々を過ごしています。まだ、不安なことも多く、挫折そうになることもありますが、一人暮らしを心配してくれてくれた人々への感謝の気持ちを忘れずに、目標に向かって努力し続け、前に進んでいきます。

この調子で、しっかりやっていけば良いものが書けるだろう。この先も「満足行く修士論文」を目指し、邁進して行きたい。

# 余裕ある思考

大学院文学研究科 柘植由美恵



大学院に入って、学部の頃と変わったことはなんだろうか。まずは共同研究室を使える様になったことである。これがまた便利である。そして何より、修士論文の指

導以外の授業でも修士論文のテーマについて、またそれを絡めて考える様になったことだろう。学校生活のほとんどが修士論文で占められていると言っても良いくらいである。実に良い傾向であると思う。私の大学院での第一目標は、悔いの残った卒業レポートを満足いく修士論文に仕上げることなので、この現状はその目標に向かってき

ちんと向かっているということだろう。卒業レポートの時は一年間しか準備期間がなかったが、しかし、修士論文に関しては二倍の二年間ある。さらに、卒業レポートの指導が始まった当初、ちやうど去年の今ぐらゐの時期だろうか、まだレポートの輪郭すら見えずに周章狼狽していた。それに比べて、今は目指す先がしっかりと見えている。つまり卒業レポートの時に比べて、断然余裕がある。その余裕のお蔭でしっかりと思考できている様に感

じている。卒業レポートの時とは比べ物にならないくらいに思考が広く多種に広がっているのを感じる。これはとても良い傾向である。この調子で行けば満足いくところまで持っていけるのではないかとこの予感がある。

